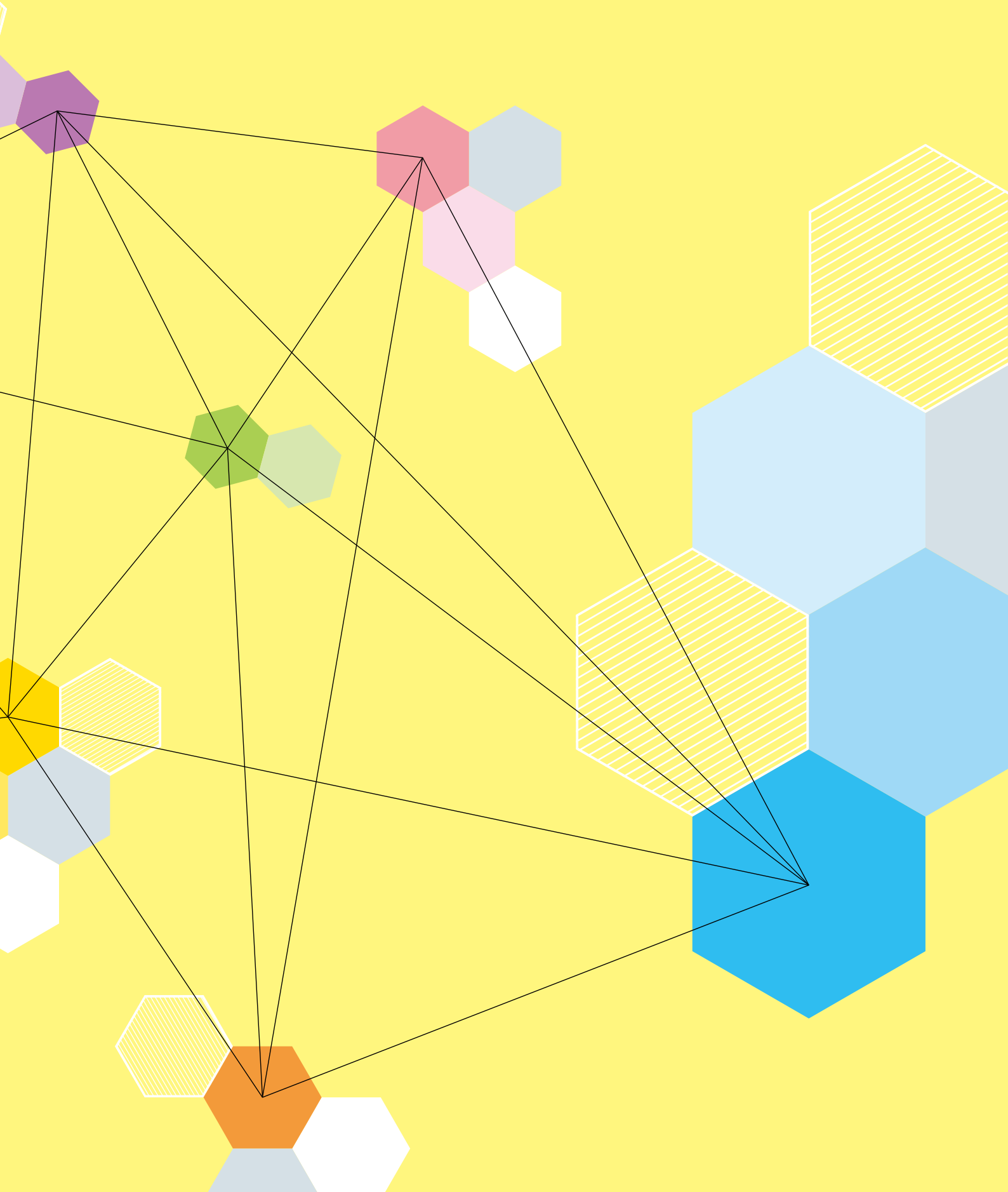


金沢市

平成29年3月

金	沢	市	集	約	都	市
			形	成	計	画

持続的に成長する成熟都市を目指して



金沢市集約都市形成計画

—持続的に成長する成熟都市を目指して—

金 沢 市

平成29年3月

金沢市集約都市形成計画の策定にあたって

本市は、加賀藩の城下町として都市の礎が築かれ、その後、大きな災害を受けることなく、藩政期からの町並みをはじめとする当時の面影が随所に残っています。

先人達が、これまで連続と引き継いできたまちづくりの規範は、このまちに魅力と品格を与え、「歴史都市」「創造都市」として、現在では国内外の多くの方々から評価されるようになっていきます。

平成 25 年には、『世界の「交流拠点都市金沢」をめざして』を策定し、北陸新幹線金沢開業を機に更なる高みをめざし、これまで培われた金沢のストックを最大限に活用することにより、国内外から人・モノ・情報の集積を図り、その交流を通じて新たな価値を創造し、持続的な発展を目指しているところであります。

現在、本市の人口は 46 万 6 千人あまり。これまでの都市の成長過程において、本市の人口は増加の一途をたどり、特に高度経済成長期にあつては、急激な人口増加に伴う住宅需要の受け皿として、郊外部における土地区画整理事業を積極的に推進し、市街地の範囲を急速に拡大してきました。

しかし、その後、将来の人口減少が予見されるようになり、「金沢市都市計画マスタープラン（平成 21 年）」の改定では、それまでの市街地拡大を前提とした都市づくりからの方針を転換し、市街地の拡大は原則行わず、適正な土地利用計画の誘導と公共交通との連携により、主な都市機能を中心市街地及び都心軸に集約するとともに、地域生活拠点の形成と維持・充実を図ることとしました。

一方、国においては、都市再生特別措置法の改正（平成 26 年 8 月）により立地適正化計画が位置づけられ、コンパクトな都市機能や居住の集積、交通と土地利用の連携によるまちづくりの方針が一層求められるようになりました。

本計画は、今後の人口減少・超高齢社会に対応するため、都市計画マスタープランを具現化するものとして、これまでの都市構造等の変遷や地域の特性を踏まえ、区域に応じた人口密度の適正化や公共交通を基軸とした各種都市機能の適切な配置を図ることにより、これまで以上に都市の魅力や活力を向上させ、持続的に成長する成熟都市の実現を目指すものです。

この計画の策定を契機として、長期的な視点による市民のまちづくりへの意識や理解を醸成し、行政と市民が一体となったまちづくりの取り組みを進めてまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見、ご提案をお寄せいただきました市民の皆さまやご協力をいただいた策定委員、関係各位に深く感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月

金沢市長 山野 之 義

金沢市集約都市形成計画

— 目 次 —

1章 金沢市集約都市形成計画策定の目的	1
1) はじめに	1
2) 計画策定の背景と目的	3
3) 計画の構成と概要	5
4) 計画の位置づけ	7
2章 金沢市の都市構造の現況・課題	9
1) 都市構造の現況 (人口、生活利便性、都市の拠点性、安全・安心、環境、行政運営)	9
2) 都市構造の現況・課題等の整理	35
3章 本計画が目指す将来都市像	37
1) 将来都市像	37
2) 将来都市像の実現に向けた基本方針	38
3) 段階的な都市構造の変革イメージ	39
4章 誘導区域および誘導施策等の設定	41
1) 誘導区域等の設定方針	41
2) 居住誘導区域および一般居住区域の設定	49
3) 都市機能誘導区域および生活拠点の設定	55
4) 居住や都市機能の配置の方針	63
5) 居住や都市機能等の誘導施策	67
6) 届出制度	72
5章 計画の推進に向けて	74
1) 計画の推進方策	74
2) 目標指標の設定	75
3) 本計画が目指す姿 (計画のまとめ)	77
参考資料	79